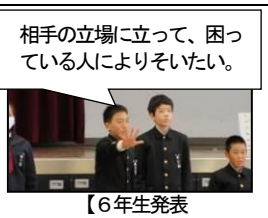
（様式２－２）

令和5年度いじめ・不登校・暴力行為等の未然防止事業（心の交流事業） 成果報告書

１　指定校・指定校群　　（　　琴平町立象郷小学校　　）

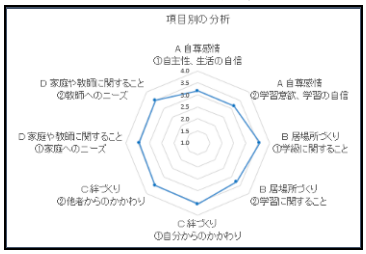
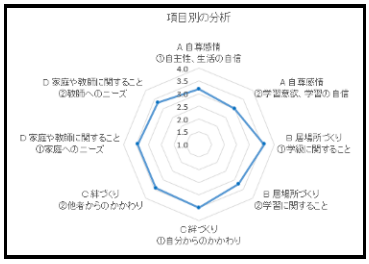
２　実施の内容

異学年による交流活動を実施することを通して、全校生のなかま意識や高学年のリーダー性を醸成し、集団における自己有用感を高める。教師は、児童の必要感に応じて情報を提供したり助言を行ったり、活動や振り返りの中で励ましや称賛を行ったりした。

⑴　人権集会	 【６年生発表 「下級生の立場に立って」】	昨年度は、５、６年生が中心になり、「いじめをなくすためには」をテーマに人権集会を行った。 今年度は、11 月に全校生が、「いろいろな人と仲良くなろう」の目標を達成するための各学年の取組を発表した。どの学年もいろいろな立場の人との関わり方について課題があり、自分たちが取り組んできたことを他学年や保護者に伝える場とした。学習参観と同じ日に実施することで、保護者にも参観しやすくし、学校と家庭の共通理解を図る場の一つとした。
⑵　授業における交流	 【異学年との交流】	５月の体力テストの練習を１・６年生で行った。１年生と６年生は、入学式からペアでの交流を繰り返し行っており、安心して体力テストにも取り組むことができた。他にも、夏に行われたプール開きでは、６年生が１年生をおんぶして入水することで初めてのプールに安心して水に慣れることができた。 ５年生は国語科「インタビューをしよう」で学習したことを実践するために、６年生にインタビューをした。５年生はインタビューの仕方を、６年生は話の聞き方の手本として実りある学習をすることができた。異学年交流によって協調性がさらに高まったり、成果を発表する機会があることで学習意欲につながったりした。
	 【園児との交流】	５年生は、来年度のペア学年として、こども園年長児と継続的に交流活動を行うことで、関係性の構築を図った。６月のこども園訪問、７月のふれあいゲームやふれあいプールを通して、関わり方に気付いたり、困り感を抱いたりした児童がいた。活動後の振り返り活動を大切にしたことで、２学期末に行ったクリスマスパーティー後には、自分の成長を実感し、次年度に向けてさらに高学年として自覚の高まりを感じる声を聞くことができた。
⑶　色別タイム	 【色別大縄跳び大会の様子】	全校生のなかま意識や高学年のリーダー性を育み、集団の中での自己有用感を高めることを目的に、全校縦割りで６チームに分けて色別活動を行ってきた。活動内容は、チームでコミュニケーションが求められるものが中心で、全学年が関わる機会が保障されている。 他学年との交流を通して、自分の考えを受け入れてもらい、自己有用感を高めることにつながった。また、高学年の活躍する姿を見た低学年児童は、「自分も高学年になったら」と、あこがれを抱くきっかけになっている。
⑷　ＨＡＰＰＹナウ	 【１・６年の交流の様子】 【ありがとうカードの交流】	遊びを通した異学年交流で幅広くなかまづくりを行う活動として、学期に１回、昼休みに『ＨＡＰＰＹナウ』を実施している。高学年と低学年でペアを作り、１学期は上学年、２学期は３・４・５年生が考えた遊びを行った。ありがとう週間と連動させ、実施後に「ありがとうカード」を書いて交換し交流を図ったり、教科での異学年交流に結び付けたりすることができた。活動を通して、高学年児童は、学年に応じたルールを作ったり、状況に応じてルールを変更したりするなど他者のことを考える心が育まれていた。また、低学年児童は準備をしてくれた高学年児童に感謝の気持ちを伝えるようになった。また、自分たちが遊びを企画する段階においては、遊ぶ相手のことを意識した企画をすることで、高学年児童の努力に気付くことができた。

３　成果

（１）アンケート結果の変遷

・　７月アンケートの結果  	◎「私には、自分の気持ちを分かってくれる友だちがいる。」…肯定91% ◎「先生は、つらいときに私を励ましてくれる。」…肯定83% →子どもたちは、肯定的な雰囲気の中で学習に取り組むことができている。 ◎「私は、まわりの人の役に立ちたいと思う。」…肯定98% →友だちへの思いやりの気持ちを見取ることができた。 ▲「私は自分のことが好きだ」…肯定66% ▲「私は、授業中、進んで発表している」…肯定66% →自尊感情に関わる内容に対する肯定的な回答が少ない傾向。
・12 月アンケートの結果  	◎「私は自分のことが好きだ」…肯定71%(＋５%) ◎「私は、授業中、進んで発表している」…肯定68%(＋２%) →課題であった自尊感情に関わる項目に改善傾向。 ◎「私は、まわりの人から感謝されたことがある。」…「はい」73%(＋７%) 「どちらかと言えばいいえ」５%(－１%)、「どちらかと言えばはい」20%(－６%) →より肯定的な回答をする児童が増加。活動を通して、感謝される経験を多く積むことができた。 ▲「いろいろな活動をするときに、先生は私たちに活動を任せてくれる」 …「はい」56%(－17%) →より児童の主体性を尊重した活動作りに取り組む必要がある。

（２）自発的・自治的な交流活動における子どもの様子

１・２・３年生の異学年交流（生活科での学習を中心に）

【アサガオクイズ発表練習】

【２・３年生に発表】

【２年生の発表を見る・３年生との交流】

１・２年生の生活科で学習したことを発表する機会として、異学年交流の時間を設定した。１年生には、単元当初から、２・３年生に向けて発表をすることを周知した。１年児童の中には、発表練習の際に、「話す人は１歩前に出て話そう」や「カードを上げてどのカードを見れば良いか分かるようにしよう」など、話し方の工夫を考えてグループ内の児童に伝え、相手意識をもって活動に取り組む児童の姿が多く見られた。３年生は、１・２年生の時に学習した昔遊びや、図工の授業で作成したコリントゲームで一緒に遊ぶことで、交流をより深めることができた。児童の振り返りの中には、２・３年生の関わり方の良かった点や、１年生の頑張りを評価する言葉を綴る様子が見られた。

【児童のふり返りカード】

児童のふり返り

１年児童「２年生や３年生がよく聞いてくれたのが嬉しかった。」
「大きな声でいっぱい練習して良かったです。」

２年児童「誰も質問が無いときに、３年生がその人のために手を上げていることが分かった。」
「声をかけてもらえて嬉しかった。１・３年生ともっと仲良くなれそうだなと感じた。」

３年児童「１・２年生にうまく教えられたか分からないけれど、もっと仲良くなれたと思う。」
「昔習った時のことを思い出せた。知らないこともたくさんあり、１・２年生はすごいと思った。」

（３）総括

児童の実態に合った教材や効果的な資料の準備、異学年交流を目的とする学習活動の設定の工夫などによって、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになってきている。様々な形式の交流により、互いに高め合える場を設定することで、児童の学習に対する興味・関心を高め、積極性を引き出すとともに、他者意識を育成することにもつながっている。また、様々な異年齢集団での活動等を通して、「自分には良いところがある」、「誰とでも進んで仲良くするようにしている」、「感謝されたことがある」と感じる児童の割合が多くなってきている。相手を意識した言動やリーダーとしての責任を果たそうとする意欲を育むための取組を継続していく。

今年度の取組をさらに発展させ、児童が活動の主体となれるようにするために、次年度の活動内容や授業形態を見直し、より児童の主体性を尊重した活動作りに取り組み、自尊感情を育成していく必要がある。